

さあ
みんな

これからも、子どもみんなプロジェクトは、
大学、研究機関、教育委員会等の幅広い方々の新たな参加をいただきながら、
全ての子どもたちの発達を支援していきます。
そこから得られた成果は、学校の先生方、保護者の皆様をはじめとする、
全ての国民に還元していきます。

文部科学省の委託事業への参画

千葉県教育委員会が文部科学省から委託を受けている調査研究「高校生を対象としたICTを活用したWEB上でのストレスチェック」（令和3年度～）に千葉大学が参画しています。

調査研究では千葉県教育委員会が100を超える県立学校で、子どもを対象にスマートフォンなどを使い、ストレスチェックを実施します。

千葉大学として以下の協力を行います。

- 生徒のスマートフォンなどを活用したストレスチェックのシステムの運用
- 教員を対象にしたe-learning動画の作成
- 精神科医によるコンサルテーションの実施（校内の教育相談コーディネーターを対象）

お問い合わせ先

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-226-2975 E-mail chibarccmd@ML.chiba-u.jp

このパンフレットのコピーは自由です。広く関係者へお配り下さい。



子どもみんな プロジェクト

～文部科学省からの提言を受けて、
同省の委託事業（平成27年度～令和元年度）として始まった
10大学のコンソーシアムの取り組み～

千葉大学

大阪大学

金沢大学

浜松医科大学

福井大学

弘前大学

鳥取大学

武庫川女子大学

兵庫教育大学

中京大学



プロジェクトの趣旨に賛同する多数の教育委員会が参画しています。

不登校、いじめなど、子どもの問題を、こころの発達の視点から解決する。
脳科学・精神医学・心理学等の領域と学校教育の連携の下、
子どもと先生を支える、全員参加のプロジェクト

プロジェクトの **3** つの視点

子どものこころの発達を「見続ける」

不登校、いじめ、暴言暴力、キレる子ども、非行など、
子どもの問題は、どんな環境で、どんな風に起こっているのだろうか？

- ・教育現場で起こっている子どもの問題について、その数だけでなく、背景、原因、子どものこころの発達との関連などについて、継続的に情報を収集します。
- ・それらの情報について検討会を、教育者と研究者で定期的に開催します。

子どものこころの発達を「知る」

子どもの問題はどんな仕組みで引き起こされるのだろうか？
どういう子どものリスクが高いのだろうか？

- ・情動の爆発的な表出にどのように対応するのか、内在化したストレスをどのように把握し対応するのかという問題は、教育現場の喫緊の課題となっています。教育現場に蓄積された実践知を収集し、その基礎にある仕組みを解明するための研究を推進します。
- ・収集したデータを、個人情報、倫理問題に配慮した上で、研究者に公開し、子どもの情動発達に関する研究、教育現場の様々な取組の効果の検証を進め、より良い教育実践を広げます。

子どものこころの発達を「支える」

具体的に、どんな教育、支援をすればいいのだろうか？
学校、先生たちの良さを最大限に活かす方法とは何だろうか？

- ・これまでの基礎的研究を、教育現場で活かせる具体的な手法に落とし込むことで、科学的根拠のある支援プログラム、教材、教員研修プログラムの開発を行います。
- ・子ども一人一人の情動行動を継続的にとらえることにより、問題行動に対して予防的に働きかけることができる仕組みを創発します。
- ・教員、支援者が、科学的根拠のある情報に、簡単にアクセスし、研修できる仕組みを作ります。



学校現場の先生たちと一緒に考えていきます

3つの視点に立ち、子どもの発達を研究している10大学がコンソーシアムを形成しています。
これまで、連携している教育委員会・学校現場の先生たちのニーズに応じて、
その解決方法を考え、具体的に提案してきました。

10大学コンソーシアムの研究成果

千葉大学

「勇者の旅」プログラム

認知行動療法の考え方をういて不安と上手につき合っていく方法を学ぶ、予防教育プログラムを開発。対象は小学校高学年以上。小学校における大規模研究で不安低減効果を確認。

子どものストレスチェックネットワークの構築

メンタル不調の未然防止の一次予防の強化を目的に、小・中・高校生を対象としたストレスチェックアンケートを実施。社会実装・実践研究によるネットワーク構築を目指している。

金沢大学

子どもみんな調査の実施

石川県教育委員会と連携し、小松市の小中学校で子どもみんな調査を実施し、各校独自の取り組みによる学校風土の向上効果を検証。学びの態度育成事業において、やり抜く力、協調性、コミュニケーション力等の「非認知能力」育成のための冊子作成に協力。個別的教育支援計画及び合理的配慮に関する調査研究を実施。

友達づくりのプログラムPEERS® 学校版の実施

友達づくりのプログラムPEERS® 学校版を実施し、支援提供システムの構築、効果検証を継続。

福井大学

子どものメンタルヘルスの総合的評価

児童生徒のメンタルヘルスについて、「児童生徒が回答する質問紙による客観的な数値による評価」と「教員の日常生活の様子観察からの主観的な評価」を合わせて総合的評価を行うことによって、子どものメンタルヘルスのより正確な評価方法の確立を目指す。また、児童生徒と教員のそれぞれの評価が反映している観点を明らかにすることも目指す。

鳥取大学

附属学校と連携した子どもの心と学びに関する発達コホート研究
学童期と思春期の子どもの自己認識、学習動機づけ、QOL、対人関係、学力、体力などを調査。

学校のくらしアンケート結果に基づくコンサルテーション

学校生活における居場所感や学校風土・多様性などの環境アセスメントによりエビデンスに基づいた子ども中心の生徒指導・教育相談を提案。

T式ひらがな音読支援（読字障害支援）

LD等専門員の養成

兵庫教育大学

勇者の旅プログラム（千葉大学開発）の効果の多面的検討
不登校抑止等の学校における課題への波及効果の検討、及びプログラム対象の拡大の試み。

学校で取り組みやすいストレスマネジメント教育プログラムの検討
リラクゼーションを中核としたストレスマネジメント教育プログラムの標準化、及びその効果測定尺度の開発。

大阪大学、(公社) 子どもの発達科学研究所

学校現場で活用可能な科学的測定と研修の実践

子どもみんなプロジェクト第一期（平成27年度～令和元年度）では、全体の統括を行い、学校風土調査、いじめ調査など開発した科学的尺度を用いて、大阪府教育庁、池田市教育委員会と連携して池田市の複数小中学校で実践してきた。また、調査結果を学校現場に活かすことができるように、同プロジェクトで作成した教師基本研修プログラムなどを用いて教員研修を行い、その成果について、シンポジウムなどを通して発信してきた。

浜松医科大学 (公社) 子どもの発達科学研究所

学校風土尺度の開発と学校風土向上への取り組み

学校風土を科学的に測定できる、日本学校風土尺度を開発し、学校風土を改善するために必要な研修支援を実施。

子どものメンタルヘルス調査NiCoLiの実施

子どものメンタルヘルスの状況と環境との関連を測定できるWebシステムを開発し、子どものこころの危機をスクリーニングし、対応するシステムを提案。

弘前大学

心のサポートアンケート

弘前市内全公立小中学校の児童生徒とその保護者（約11,000組）を対象とし、子どもたちの心の健康に関する追跡調査を行ってきた。不登校や自傷行為、いじめ等の問題の未然防止を目指し、それらの予兆となる指標の開発と学校現場へのフィードバックを行っている。これまでの取り組みの成果として、対象地域において子どもたちの抑うつ軽減、不登校率の改善が示されている。

武庫川女子大学

こころんサーモによる子どもの心理特性の追跡

子どもの心理状態を継続的に記録し、生徒理解に役立てるためのシステム設計を進めている。

小学5年から中学3年までの児童生徒を対象とした、西宮市教育委員会との共同研究である。

令和2年度は、研究協力校を中心として、タブレットを使ったデータ収集システムの構築方法を検討した。

中京大学

子どものこころの健康と発達に關係する諸要因を探索するコホート研究
愛知県大府の小中学校の児童生徒・保護者・教師に対して子どものこころの健康と発達に關係する諸要因を探索するコホート研究を10年以上実施してきている。コホート研究で得られた知見を各家庭に対して個票等でフィードバックしている。教員に対する支援としては、教員研修および不登校事例検討会という形で研究知見の教育現場への還元を実施している。